

## 猿投山

豊田市の北端に位置する猿投山は、人気のハイキングスポットであると同時に、古代から現在に至るまで崇拜されてきた神聖な山でもあります。丸みを帯びた山頂（標高 629 メートル）は、ほぼ全方向から見渡せるため、方角を知る重要な目印であるとともに、周辺の平野部に住む人々にとっては、長い間、畏怖と好奇心の対象であったと考えられています。猿投山への信仰がいつから始まったのかは定かではありませんが、少なくとも 9 世紀頃から猿投山の斜面には、神仏習合の神社が存在していました。それらは現在の猿投神社の前身に当たります。猿投神社は南麓の本宮と、それぞれ山の東斜面・西斜面に位置する東宮・西宮からなる大規模な神域です。

週末には多くのハイカーが訪れますが、特に山腹の桃の木が満開になる春と、紅葉が色づく秋は人気です。斜面にはスギやヒノキのほか、アカガシ、ヤブツバキ、ツブラジイ、ツガ、ミズメなどが点在しています。

登山道は 2 つあり、どちらも猿投神社の本宮を起点とします。西側のコースは広沢川に沿って 7 つの滝を見ながら西宮を目指し、山頂に向かいます。東側のコースは東宮と杉の巨木群を経て、南アルプスを望む尾根に出て山頂へと続きます。どちらのコースにも大きな岩が点在していて、船の形をした岩や、カエルの形に似ていると言われる岩などがあります。1 周 13.3 キロメートルのコースは、約 4 時間半で回ることができます。

山頂から西・南西方向には、名古屋市街、知多半島、伊勢湾、三河湾などが見えます。北側には、旧美濃国、尾張国、三河国の国境に位置することから名づけられた標高 701 メートルの三国山があり、晴れた日には白山（2,702 メートル）や御嶽山（3,067 メートル）の山頂、南アルプスの山々を見ることができます。